

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	石川 信一 (いしかわ しんいち)	所属	同志社大学
研究集会等名称	社団法人日本心理学会 児童青年認知行動療法研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 9名 (うち認定心理士 2名) 非会員 14名 (うち認定心理士 1名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>児童青年認知行動療法研究会では、これまで年1回程度の研究会を定期的開催し、最新の研究についての発表や参加者同士の交流の場を設けてきた。これまで関東方面で行われることが多かったが、今回は前回に引き続き関西を会場として開催された。前回の研究会は日本心理学会の大会前日に実施されたために比較的多数の参加者を見込むことができたが、今回は大会前日が平日であったため、別日程での開催となった。</p> <p>当日は関西地方を中心に23名の参加者が訪れた。関西以外にも、長野、愛知、宮崎からの参加があり、学会以外の場でより集中した学術的コミュニケーションの場を提供することができた。</p> <p>研究会では甲南大学の澤香織先生を講師としてお招きし、子どものトラウマに対する認知行動療法について最新の知見をまとめた講演を実施していただいた。2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、子どもの心のケアにかかわる多くの専門家が注目する話題でもあり、多数の聴衆からの質問・コメントを受けた活発なディスカッションが行われた。</p> <p>後半は本研究会の幹事を務める同志社大学の石川信一と関西大学の佐藤寛がシンポジウムを実施した。米国への留学経験を踏まえた子どもの抑うつに対する認知行動療法の実践について報告し、わが国における実践的な課題と日本から世界に向けて発信すべき研究の方向性に関する議論がなされた。</p> <p>子どもの認知行動療法に関する専門家間のネットワークは、これまで国内の限られた地域に限定して存在するのみであった。本研究会の開催によって多様な地域の専門家同士において相互交流が促進され、新たな研究の試みも行われている。これらの成果は各地の学会・シンポジウム等で報告され、学術論文としても出版されるなど一定の成果を挙げている。</p> <p>2013年にAsian Cognitive Behavior Therapy Conferenceが東京で開催されることを踏まえ、日本から海外に発信される研究成果の基盤を整えることが次年度への目標となる。</p>		